

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第3部門第2区分
【発行日】令和6年10月7日(2024.10.7)

【国際公開番号】WO2022/080294
【出願番号】特願2022-556954(P2022-556954)
【国際特許分類】

A 6 1 K 47/34(2017.01)
A 6 1 K 47/32(2006.01)
A 6 1 K 39/395(2006.01)
A 6 1 P 43/00(2006.01)
C 1 2 N 15/87(2006.01)
C 0 7 K 7/02(2006.01)
C 0 7 K 14/00(2006.01)
C 0 7 K 16/00(2006.01)
C 1 2 P 21/08(2006.01)

10

【F I】

A 6 1 K 47/34
A 6 1 K 47/32
A 6 1 K 39/395 D
A 6 1 K 39/395 N
A 6 1 P 43/00 1 0 5
C 1 2 N 15/87 Z
C 0 7 K 7/02
C 0 7 K 14/00
C 0 7 K 16/00
C 1 2 P 21/08 Z N A

20

【手続補正書】

【提出日】令和6年9月27日(2024.9.27)

30

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の組成物によれば、高分子量の化合物を細胞内に導入することができる。特に、抗体医薬などの薬剤の生体内での吸収を促進させることができ、薬効を高めることが可能である。

【手続補正2】

40

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

医薬組成物を用いる場合の投与量は、例えば、使用する有効成分の種類、病気の種類、患者の年齢、性別、体重、症状の程度、又は投与方法に応じて適宜決定することができ、経口的に又は非経口的に投与することが可能である。医薬組成物は、好ましくは薬剤学的又は獣医学的に許容することができる通常の担体又は希釈剤とともに、対象〔例えば、動物、好ましくは哺乳動物（特にヒト）〕に有効量で投与することができる。

50

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

本発明の組成物が投与される細胞は、動物、植物、細菌等のいずれの細胞でもよい。i n v i t r oで細胞に適用する場合、培養液（液体培地ともいう）等に分散された細胞、固体培地等に接着した細胞、生体組織の細胞等のいずれの細胞にも投与化合物を導入することが可能である。細胞は、組織細胞や神経細胞等を形成する接着系の細胞と、血球細胞等の浮遊系の細胞に大別できる。本発明の組成物は、接着系の細胞だけでなく、浮遊系の細胞に対しても、投与化合物を高い効率で導入することが可能である。

10

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0046

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0046】

《製造例 2》

製造例 1 において、X²を L-オクタアルギニンに変更した以外は製造例 1 と同様の操作（試薬類も同量）を行い、製造例 2 の高分子化合物（以下、VP-R₈/L と称する）110mg を得た。GPC 分析（製造例 1 と同様の条件）により、VP-R₈/L の重量平均分子量は 370000（PEG/PEO 換算）であり、NMR の積分値から式（3）の構造を有することが分かった。また、1H-NMR 分析から x : y : z = 70 : 19 : 11（モル比率）であった。

20

30

40

50